

『読解力向上を目指す学習指導法』
～図形領域における表現の工夫を通して～

宮崎県都城市立山之口中学校 山下 美希

1 主題設定の理由

平成31年度の全国学力調査の生徒質問紙「解答時間は十分でしたか」の問いに「やや足りなかった」と回答した生徒が27.8%と、全国が13%、県が19.5%に比べて多かった。全国学力調査の問題は文章量も多く、読みとるのに時間がかかることが原因と考えられる。また、本校の生徒は図形領域に対しての苦手意識が高く、証明問題での無回答が多かった。そこで、生徒にアンケートを実施し、実態把握を行った。その結果、証明問題に対して「表現したいが、どのように表現してよいのかわからない」と回答した生徒が多かった。また、「数学の授業の中で楽しいと感じる場面はどこか」という質問に対して、「問題が解けたとき」「友達と協力して解決できたとき」「難しい問題が解けたとき」と回答した生徒が多かった。そのため、図形領域での読解力を向上させるすなわち、様々な情報を見極め、整理し、表現する力を伸ばすことができれば、学力を向上させることができるのではないかと考え、本主題および副題を設定した。

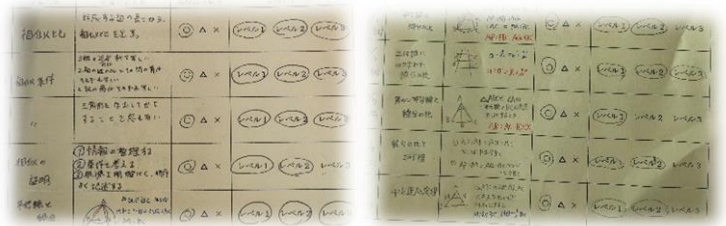
2 研究の仮説

- (1) 問題を読み取る時間にタイムプレッシャーを設定すれば、必要な情報を見極め、整理する力を身につけさせることができるであろう。
- (2) 授業の中で、「わかった」「できた」という達成感を味わわせたり、「挑戦したい」と学習意欲を引き出したりするような授業展開を工夫することで、主体的に学び、自ら表現しようとする生徒を育成できるであろう。

3 研究の実際

- (1) タイムプレッシャーを設定した問題読み取り
問題を読み、情報を整理し、図に表すなどを与えられた時間の中で行わせた。その際、図に情報を書き込むことを徹底した。
- (2) 授業展開の工夫
授業展開の中で、達成感を味わわせる工夫として、問題のレベル設定とアウトプットの2つの柱を設けて授業を行った。
 - ① 問題のレベル設定
レベル1を教科書の例題問題、レベル2を基本問題、レベル3を応用問題と3段階のレベル設定

を行った。振り返りシートを自己評価させることで、次の目標設定などを自主的に行っていた。



(生徒の振り返りシート)

② アウトプット場面としてのペア学習の充実

表現の仕方がわからない生徒への手立てとして、ペア学習を取り入れた。証明問題に対しては、口述での証明を行った。教え合うだけでなく、両者とも発表させることで表現の定着を図った。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

図形領域における問題の読み取りや情報の整理に関しては、おおむねできるようになった。授業後に生徒アンケートを再度行った結果、証明ができるようになったと回答した生徒が増えた。実際に実力テスト等の証明の記述問題に対して、無回答率が下がり、正答率が上がった。また、レベル設定を取り入れたことで、意欲的に問題に取り組む生徒が増えた。

(2) 課題

タイムプレッシャーの時間設定について、生徒の様子を見て延長させてしまい、統一することができなかった。そのため、徹底した定着が図れなかった。また、レベル3の応用問題に対して、授業の中で時間を確保できなかつたり、はじめからあきらめてしまう生徒がいたりした。数学が苦手な生徒に対しては、情報の整理に時間がかかってしまい、表現の仕方の定着まではできなかった。

本研究を通して、図形領域での情報の整理や表現の仕方を中心に行ってきたが、今後はさらに領域を広げて、様々な情報を見極め、整理し、表現できる生徒の育成に力を入れていきたい。